基本計画の策定にあたって

人は、出会いや気づきの中から、感動、喜び、悲しみ、怒りなどのいろいろな感情をもちます。そして「放っておけない」「何とかしなければ」という気持ちになることがあります。

このような人として誰もがもっている心の中の率直な思いやちょっとした親切心を分かち合い、行動に表すことがボランティアと言えるでしょう。

また、ボランティアには「ボランティアをした人」も「ボランティアをしてもらった人」も、ともに「豊かな気持ち」になる力があります。

あやべボランティア総合センターは、そんな「豊かな気持ちになるボランティア」に参加するきっかけや仕組みづくりを進めることで、「ボランティアをしてほしい人」に関わりやすい環境を整え、こころ豊かな地域社会をつくる活動を進めてきました。

しかし、今日の地域を取り巻く社会環境の変化や、生活スタイルの多様化によりボランティアニーズもさまざまである現状があります。また、ボランティアをする人やボランティアに対する考え方も多種、多様化してきました。

センターは、このような状況を踏まえ、今後10年間の活動の基本となる「あやべボランティア総合センター基本計画」を定め、「ボランティアをする人」、「ボランティアをしてほしい人」の目的や思いを見極め、センターがボランティアの「つどいの場」となり、「誰もがボランティアに気軽に参加できる。」仕組みづくりや「誰もがボランティアを気軽に利用できる。」意識の広がりにより「一人１ボランティア」と「こころ豊かな地域社会」の実現を目的に策定したものです。

なお、センターは本計画が社会・経済情勢やボランティア環境の変化に即した内容を保つことを目的に、計画の実施状況や有効性を確認する機会を設けます。

※巻末（Ｐ37～Ｐ39）に用語説明を掲載しています。

ボランティア活動とは

ボランティア活動の定義

サマーボランティア体験2010

ボランティア活動とは、「自らの自由意思によって人や社会に向けられる非営利の公益活動」です。宗教の教義を広めることや、政治の主義を推進することを目的としないもので、社会のために自分ができることを行うことであり、暮らしや心の豊かさを向上させる重要な活動です。

今日ではボランティア活動の内容は多様化しており、活動分野も福祉をはじめとして、文化、環境、教育、保健、医療、災害、地域安全など多岐にわたっています。

ボランティア活動の主な性格

○自主性・自発性

誰かに強制されるのではなく、自分の考えで活動することです。

○社会性・連帯性

誰もがこころ豊かに暮らしていけるように、みんなで協力し、支え合う活動です。

○非営利性

お金を得るための活動ではなく、出会いや感動、喜びを得る活動です。

○先駆性・開拓性

社会で何が求められているかを考え、よりよい社会を自分たちの手でつくる活動です。

兵庫県佐用町での災害ボランティア活動の様子

■ボランティア活動の高まりの主な背景

- 1995年の阪神淡路大震災では全国から大勢のボランティアが被災地に駆けつけたことから、「ボランティア元年」と呼ばれ、また震災の日（１月17日）を「防災とボランティアの日」とされたことなどにより、ボランティア活動への認識や評価、関心が高まりました。
- 高度経済成長による人口の都市集中や核家族化の進展、社会保障制度の充実などで地域コミュニティーの希薄化に対して、ボランティア活動への関心が高まりました。
- 週休２日制や労働時間の短縮で、生活にゆとりが生じたことにより、ボランティア活動を通して社会に貢献したい人々が増え、活動への関心が高まりました。

Ⅰ　ふりかえり確かめる

あやべボランティア総合センターは今年で設立10年の節目を迎えるにあたり、センターのスローガンである「こころ豊かな地域社会」の更なる推進を目的に「あやべボランティア総合センター基本計画」を策定する取り組みとして、これまでセンターが行ってきた活動をふりかえりその成果や現状を取りまとめるとともに、市民等のボランティアに対する意識調査として「あやべボランティア総合センター基本計画策定アンケート」を実施しました。

10年間の活動のふりかえりやアンケート結果等により、ボランティア活動に対してセンターが中心となり、重点的に取り組むべき課題を「あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会」で協議・検討し、確かめました。

策定委員会の様子

■あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会

平成22年６月に「あやべボランティア総合センター基本計画」の策定を目的に設置。

※詳細Ｐ34～Ｐ35添付「あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会設置要綱」参照

■あやべボランティア総合センター基本計画策定アンケート

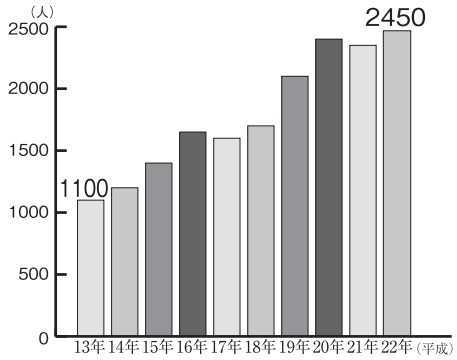
「あやべボランティア総合センター基本計画」の策定にあたり、ボランティアに対する意識調査として、市民、団体、施設等を対象に実施。

1　センターの10年間の成果と現状

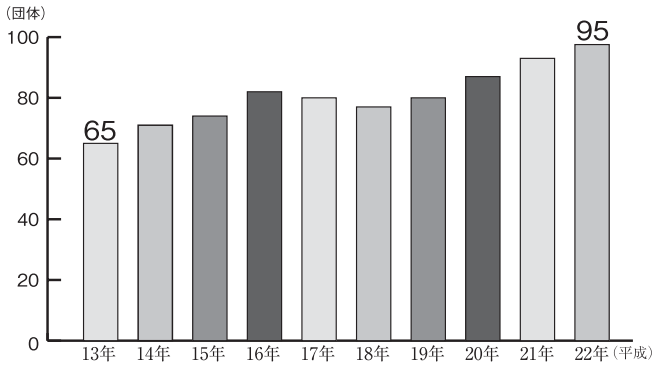
あやべボランティア総合センターは、ボランティア活動の普及・充実を進めることを目的に平成13年５月に設立され、ボランティアの「学びの場づくり」、「情報の発信」等の事業や、ボランティアコーディネーターによるボランティアの需給調整、ボランティア団体のつながりづくり、さらには、センターが「ボランティアのつどいの場」になるための貸館事業等を行ってきた結果、センター登録ボランティア団体数は10年間で95団体2,450人（設立当初65団体1,100人）となったことは大きな成果であり、センターの設立目的である「ボランティア活動の普及・充実」が進展したことの表れです。

現在、センターは、これまでの事業を継続しながら、将来予想されるボランティアニーズを見極めた活動支援と、更なる「ボランティア活動の普及・充実」を目指し、次代を担うボランティア活動者の育成及び、災害時のボランティア活動の支援、並びに、関係機関との連携による新たなボランティアの形づくりにつながる事業を重点的に取り組んでいます。

センター登録人数



センター登録団体数



■あやべボランティア総合センターの設置

平成13年５月、綾部市と綾部市社会福祉協議会が母体となり設置されました。

平成22年度の状況

登録団体数等	95団体(2,450人)
職員体制	２名(市職員、市社会福祉協議会職員)
設置場所	綾部市本町２丁目14番地 あやべハートセンター内
付帯サービス	貸館、事務機器・印刷機
事業内容	「ボランティア総合センターの主な事業内容」Ｐ５～Ｐ７参照

※あやべボランティア総合センターの外観（本町）

あやべボランティア総合センターの主な事業内容（2000～2010）

○活動支援・参画

ボランティアを「したい」「してほしい」に応える需給調整や活動に関する相談と、各種活動への参画、センターの環境整備を行うことによる活動支援を実施しました。

- 窓口相談　●電話相談
- ボランティアコーディネート
- ボランティア保険の対応　●各種助成金の申請に関する相談
- 各種活動への参画
- 貸館事業
- パソコン、コピー機、印刷機、帳合機、紙折り機等の設置
- センター専用車両の購入

※ボランティア活動助成金で購入された高齢難聴者サロン「月曜会」のエアコン

○ボランティア団体のリーダー育成

登録ボランティア団体のリーダーを対象に団体の運営やリーダーのスキルアップを目的とした研修会を実施しました。

- ボランティアリーダー研修　●基調セミナー

※パソコン基礎講座

○ボランティア活動のスキルアップ

登録ボランティア団体を対象にボランティア活動に関する技能習得を目的とした講座を実施しました。

- ボランティアステップアップ講座　●自分発見！ボランティア講座
- パソコン基礎講座

○ボランティア情報の発信

ボランティア情報を登録ボランティアや市民に幅広く発信しました。

- センター情報紙「あボ情報」の発行
- 広報誌「ボランティアNEWS！」の発行
- センター紹介のパンフレットやポスターの作成
- ボランティアガイドブックの作成
- センターの看板設置
- FMいかる「ボランティアの窓」の番組出演による情報発信
- 市、社協広報誌による情報発信
- ホームページの運用
- センター情報パネルの展示
- 新聞記事による情報発信

※2009年に設置されたセンターの看板

○調査活動

登録ボランティア団体や市民を対象にボランティア活動に関する調査を実施しました。

- ボランティア活動に関する意識調査
- 登録団体の年間活動調査

※朗読ボランティア「ともしび」
結成25周年記念朗読コンサート

○災害ボランティア対策

災害ボランティア活動の啓発と支援等を実施しました。

- 災害に強いまちづくり講座
- 綾部市災害ボランティアセンター連絡会への参画
- 災害ボランティアセンター設置訓練
- 京都府総合防災訓練への参加
- 災害ボランティア活動への参加

○ボランティアのつながりづくり

登録ボランティアを対象に“つながりづくり”を実施しました。

- ボランティア交流会
- 地域別ボランティアセミナー
- 市外視察、研修の相互の受け入れ

※専門部会視察研修会
（まちづくり部会）

○ボランティアの学びの場

登録ボランティアを対象に各分野別の“専門性を学ぶ場”や市民を対象としたボランティア活動参加への“きっかけづくりとなる学習の場”を提供しました。

- ボランティアセミナー
- 活動分野別部会事業
- サマーボランティア体験
- ボランティア入門講座
- 点訳奉仕員養成講座

※出前型バリアフリーサロン
喫茶「シボラ」のオープニング（障害者支援部会）

○ボランティア意識の普及・啓発

ボランティア意識の広がりや、活動の魅力、必要性などの普及・啓発を実施しました。

- ボランティアフェスティバル
- ボランティアフォーラム

「あやべボランティア総合センター基本計画策定アンケート」の結果分析による

2　市民等の実態と意識

■「あやべボランティア総合センター基本計画策定アンケート」は、市民等のボランティアに対する実態と意識をつかみ分析することにより、基本計画に盛り込むべき課題を明らかにし、市民目線に立った計画づくりを目的に実施しました。

アンケートの対象

1　市民（無作為抽出1,000人を対象）
2　センター登録ボランティア団体（メンバー2,450人を対象）
3　当事者（団体）（131人を対象）
4　福祉施設等（29施設等を対象）

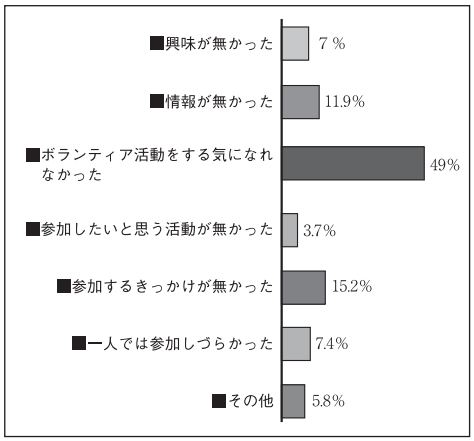
①ボランティア活動に対する市民の意識の特徴

（市民無作為抽出1,000人を対象に実施：回答率24.1%）

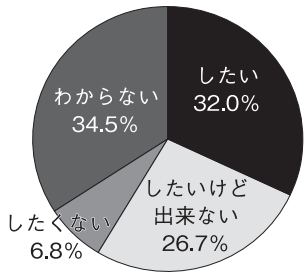
市民を対象にしたアンケート調査結果によると、「ボランティア活動をされたことがありますか？」の問いでは「ある」と答えた人は、回答者全体の４割弱という結果でした。「出来なかった」と答えた人の「出来なかった理由」の問いに対しては、ボランティア活動を「する気になれなかった」、「きっかけが無かった」、「情報が無かった」という理由をあげています。「将来ボランティア活動をしたいと思われますか？」という問いに対しては、「したい」と答えた人は回答者全体の３割程度ですが、「わからない」「したいけど出来ない」と答えた人を含めると、回答者全体の８割を超え、ボランティア活動に何らかの関心や参加の可能性があることがうかがえます。

センターの認知度等について、「ボランティア総合センターをご存知ですか？」の問いに対して「知っている」と答えた人は回答者全体の２割程度、「センターを利用されたことがありますか？」の問いに対しては「ある」と答えた人は回答者全体の１割にも満たない状況でした。

◆ボランティア活動をされなかった理由はなんですか？



◆あなたは将来ボランティア活動をしたいと思いますか？



【結論】

これらの結果から、センターの取り組むべき課題として、ボランティア活動の「きっかけづくり」やボランティア活動に「関心」や「参加の可能性」がある人への働きかけ、ボランティア活動に関わりやすい「新たな仕組み」づくりなどの環境整備が必要であるとともに、「情報発信」、「センターの利用促進」に一層取り組む必要があると考えます。

②ボランティア活動に対する登録ボランティアの意識の特徴

（登録ボランティア団体メンバー2,450人を対象に実施：有効配布2,313人：回答者数387人：回答率16.7パーセント）

登録ボランティア団体を対象にしたアンケート調査結果によると、団体活動者の年齢は60～70代の方が回答者全体の７割を超えていることがわかりました。性別については、男性が約３割、女性が約７割という結果でした。

ボランティア活動分野の調査として、「どのようなボランティア活動をされていますか？」という問いに対しては、「高齢者支援」「障害者支援」「子育て支援」と答えた人が、回答者全体の５割を超える結果で、福祉の分野でボランティア活動が比較的広がっていることがうかがえました。

ボランティア活動のきっかけとして「ボランティア活動に参加されたきっかけは何ですか？」という問いに対しては「関心があったから」や「生きがいを感じたい」など、自発的な場合と、「地域の役に立ちたい」や「地域の知人に誘われて」など地縁的な場合があることがわかりました。

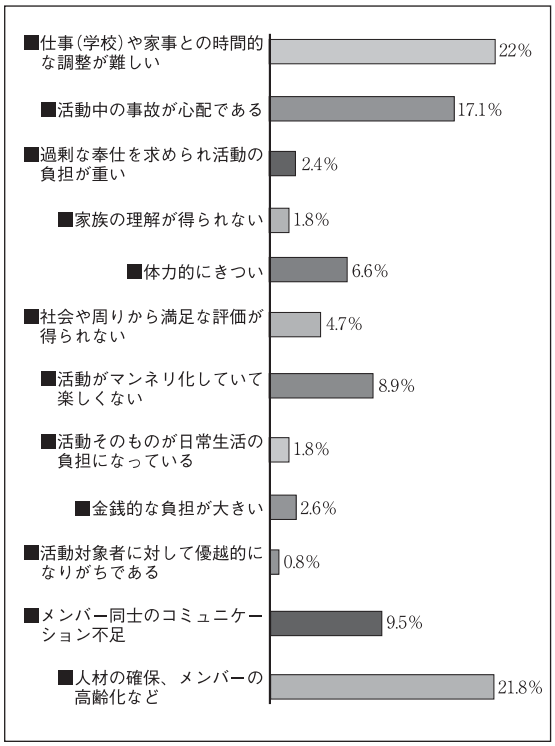
いずれも「社会や地域をよくしたい」という最終目的は共通していますが、ボランティア活動への参加のきっかけは、人々の属性などによりかなり多様であることがわかりました。

「ボランティア活動をされる上で課題と思われるものをお聞かせください。」という問いに対しては「仕事や家事との両立」や「活動中の事故が心配」という日常的な課題と、「人材の確保」や「メンバーの高齢化」という組織の存続に係る課題があることがわかりました。

◆あなたの、性別・年齢を教えてください。

性　別	男　性	２６．２％
	女　性	７３．８％
年　齢	10歳代	０．０％
	20歳代	０．２％
	30歳代	４．４％
	40歳代	３．４％
	50歳代	１０．６％
	60歳代	３９．３％
	70歳代	３６．９％
	80歳代	５．２％

◆ボランティア活動をされている上で課題と思われるものをお聞かせください。



【結論】

これらの結果から、センターの取り組むべき課題として、世代や性別、地域の特性を生かしたボランティア活動を重視しつつ、「ボランティアの担い手の育成」を目的とした事業展開や、若い世代がボランティア活動に参加する機会づくりなど、より多くの人がボランティア活動に参加し、活動の価値を改めて認識してもらうことが必要であると考えます。

③ボランティア活動に対する当事者（団体）の意識の特徴

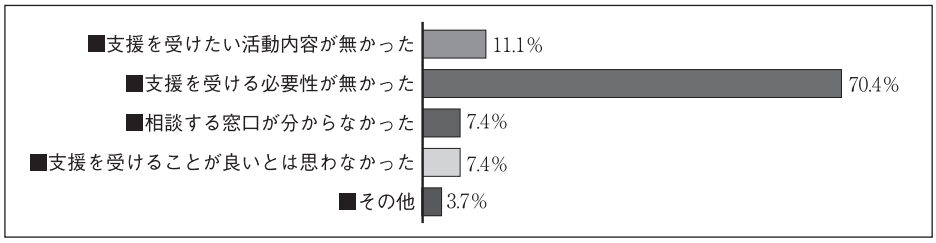
（当事者を対象に実施：配布数131人：回答者数48人：回答率36.6%）

◆あなたは、ボランティア活動の支援を受けられたことがありますか？

ボランティア活動の支援を受けながら、自らもボランティア活動を行っている当事者（団体）を対象にしたアンケート調査結果によると、ボランティア活動の支援を受けたことが「ある」と答えた人が約５割、「ない」と答えられた人も約５割という状況でした。「どの分野でボランティア活動の支援を受けられましたか？」の問いに対しては「障害者支援」「高齢者支援」「子育て支援」が上位を占め、主にこれらの分野でボランティア活動が求められていることがうかがえました。

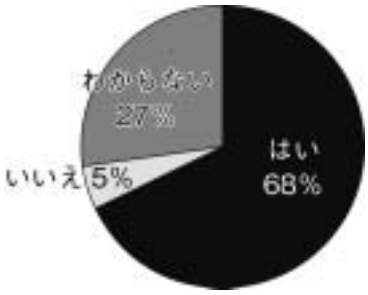
また、「ボランティア活動の支援を受けられなかった理由をお聞かせください。」という問いに対しては、「支援を受ける必要性が無かった。」という答えが全体の７割を占めていたことから、当事者（団体）の属性によって「ボランティア活動を求める」場合や、「自立・自助努力」をしている状況がうかがえました。

◆あなたが、ボランティア活動の支援を受けられなかった理由は何ですか？



しかし、「将来ボランティア活動の支援を受けたいと思いますか？」という問いに対しては、「はい」と答えた人が回答者全体で７割程度あり、「わからない」と答えた人を含めると、９割以上の人が「将来ボランティア活動の支援」を受ける意向や可能性がある状況がうかがえます。また、「センターに今後も必要だと思われる取り組みは何ですか？」という問いに対して「ボランティア・市民活動を通じて社会的な福祉問題等を解決していくための活動支援をすること」と答えていることは特徴的で、当事者（団体）は、自らボランティア活動に参加することにより、社会的課題等の解決や緩和につながるボランティア活動の広がりを求めていることがうかがえました。

◆あなたは、将来ボランティア活動の支援を受けたいと思いますか？



【結論】

これらの結果から、センターの取り組むべき課題として、当事者性を意識した活動支援と、当事者が行う「社会的課題」「福祉的課題」の解決や緩和に向けた活動に対し、理解や支援をする意識の醸成を図るとともに、関係機関との連携や、情報交換などに取り組み、また、将来増すことが予想される当事者からのボランティアニーズに応えるため、ボランティア活動による支援体制の充実を図る必要があると考えます。

④ボランティア活動に対する施設等の意識の特徴

（福祉施設等を対象に実施：配布数29施設：回答数17施設：回答率58.6%）

ボランティア活動の受け入れ先の一つである、福祉施設等を対象にしたアンケート調査結果によると、「施設でボランティアの受け入れをされたことがありますか？」の問いに対して回答した全施設が「ある」という答えでした。

受け入れ頻度については「年に１回～４回」や多い施設では「週に３回～４回」という施設もありました。

◆施設でボランティアの受け入れをされたことがありますか？

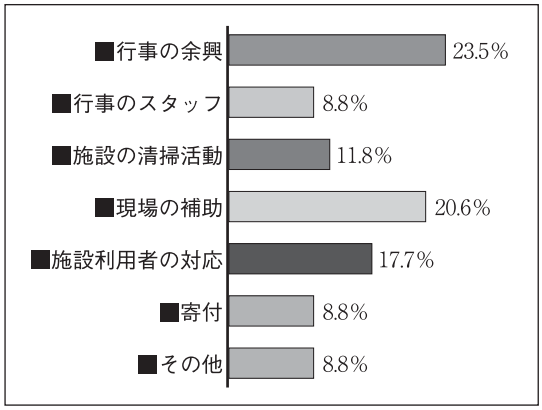
ある➡100%

ボランティア活動の受け入れ態勢調査として「ボランティア活動の募集・受け入れについてどのような工夫をされていますか？」の問いに対しては「ボランティア連絡調整窓口の一本化」、「ボランティア活動の申し出があった際には迅速な対応をするようにしている」との答えがあり、施設の「社会化」にはボランティア活動の受け入れが不可欠であり、「地域に開かれた施設づくり」の一環として、ボランティア活動の場の提供を積極的に行っている現状がうかがえます。

◆施設では、ボランティア活動の募集・受け入れについてどのような工夫をされていますか？

- ボランティア連絡調整窓口（担当者）の一本化。
- 申し出があった際には迅速な対応をするようにしている。
- ボランティアは地域の方々との関わりであるという意識をもち、施設においてできる範囲で協力している。
- 法人広報誌とホームページ等に掲載している。
- 担当者が中心となって職員会議等の機会に受け入れについて職員の意向等を確認、協議の上で決定している。

◆施設では、どのような内容でボランティア活動の受け入れをされましたか？



また、「ボランティア活動の活性化等を図るために施設の人材や設備を活用して、活動に対してどのような協力や支援ができると考えられますか？」の問いに対しては「施設スペースの貸し出し」「器具、備品等の貸し出し」「介護技術講習会」などをあげています。

◆ボランティア活動の活性化等を図るために施設の人材や設備を活用して、活動に対してどのような協力や支援ができると考えられますか？

- 施設スペースの貸し出し。
- 器具、備品等の貸し出し。
- 内容により職員の人的援助・補助。
- 認知症についての講義、介護技術講習会

【結論】

これらの結果から、センターが取り組むべき課題として、ボランティア活動の場の提供や、ボランティア活動者が専門的な知識を得る新たな機会づくりを目的に、施設等に対して連携や協力、柔軟な関係づくりを求めていく必要があると考えます。

アンケート結果（結論）から見えてきた センターが取り組むべきこと

①市民アンケートから見えてきたもの

・ボランティア活動のきっかけづくり
・ボランティア活動に「関心」や「参加の可能性」がある人への働きかけ
・ボランティア情報の発信
・センターの利用促進

②登録ボランティアアンケートから見えてきたもの

・世代や性別、地域の特性を生かしたボランティア活動への支援
・ボランティアの担い手の育成
・若い世代がボランティア活動に参加する機会づくり

③当事者アンケートから見えてきたもの

・当事者性を意識したボランティア活動の支援
・当事者が行う「社会的課題」「福祉的課題」の解決や緩和に向けたボランティア活動に対する支援
・関係機関との連携による、ボランティア情報の交換などの取り組み
・将来増すことが予想される当事者からのボランティアニーズへの備え

④施設等アンケートから見えてきたもの

・施設等との連携や協力、柔軟な関係づくりによるボランティアの広がり
・ボランティア活動者への活動の場の提供や、ボランティア活動者が専門的な知識を得る新たな機会づくり等を目的とした連携や協力

【アンケート結果分析総論】

ボランティアに対する思いや希望は、人が置かれている立場によって異なります。センターはそのことを踏まえ、それぞれの立場のニーズを把握し、目的と方向性を明確にした支援や事業を進めることが重要です。さらにアンケート中で「あやべボランティア総合センターに今後も必要だと思われる取り組みは何ですか？」の問いに対して（下記参照）全員が「ボランティアをしたい人としてほしい人をスムーズにむすびつけること」と回答していることから、ボランティアを「したい人」、「してほしい人」両者の思いや目的を見極めたボランティアの需給調整（ボランティアコーディネート）を行うことがセンターの重要な役割の一つと言えます。

あやべボランティア総合センターに今後も必要だと思われる取り組みは何ですか？　ベスト３

	市　民	登録ボランティア	当　事　者	施　設　等
１　位	**ボランティアを「したい人」と「してほしい人」をスムーズにむすびつけること**	**ボランティアを「したい人」と「してほしい人」をスムーズにむすびつけること**	**ボランティアを「したい人」と「してほしい人」をスムーズにむすびつけること**	**ボランティアを「したい人」と「してほしい人」をスムーズにむすびつけること**
２　位	ボランティア全般において専門的な相談に応じること	ボランティア活動者・ボランティア活動受け入れ団体の現状把握に常に努めること	ボランティア・市民活動を通じて社会的な福祉問題等を解決していくための活動支援をすること	ボランティア活動者・ボランティア活動受け入れ団体の現状把握に常に努めること
３　位	ボランティア活動者の「学習」の機会を提供すること	ボランティア全般において専門的な相談に応じること	ボランティア全般において専門的な相談に応じること（２位同順位）	ボランティアに関するニーズ調査とボランティア活動の意識調査を行うこと（２位同順位）

Ⅱ　基本構想

あやべボランティア総合センターは、市民一人ひとりが大切にしてほしいボランティアの「こころ」と、綾部独自の風土を活かした活動が共に広がることによる理想のまち綾部の実現を目指します。また、「10年間の成果と現状」、「アンケート調査による市民等の実態と意識」から導き出された「センターの目指すもの」の中で考察される６項目をセンターの重点課題とし、計画に反映させた取り組みを行います。

1　あやべボランティア総合センターの目指すもの

◆あやべボランティア総合センターが広げていきたい 一人１ボランティアの「こころ」

あやべボランティア総合センターは、

- 一人ひとりが対等なつながりを大切にし
- 「誰かの役に立ちたい」「追い風になりたい」「恩返しをしたい」という気持ちを、自分と等身大の行動に移すことにより
- 多くの人との「縁」をつくり
- 人と人とのつながりの「糸」が紡がれ「絆」となり
- 互いに関わり合えることの喜びに「幸せ」を感じ
- その「幸せ」をボランティアとして「お裾分け」できる

そんな一人１ボランティアの「こころ」の広がりを目指します。

※「平和の塔」から望む綾部の風景

※ふれあい広場　サロン喫茶「きらら」

※サマーボランティア体験2010

◆あやべボランティア総合センターが目指す綾部のまち ～こころ豊かな地域社会を目指して～

あやべボランティア総合センター（以下センター）は、「ボランティア国際年」の平成13年に設立されて以来、10年間の取り組みを通じて、

- **みどり豊かな自然**
- **大切に受け継がれてきた文化やものづくりの精神**
- **世界連邦都市宣言の「恒久平和への願い」に象徴されるように、誰に対しても「心の平和」を案ずることのできる人情味溢れる人柄や地域性**

から派生した「福祉」「文化」「環境」など様々な分野におけるボランティアに数多く関わり、ともに歩んできました。

11年目から新たなスタートを切るセンターは、これまで築いてきた経験やつながりを活かし、市民一人ひとりの「可能性」を伸ばすとともに、ボランティア・地域・関係機関・企業との目的意識の共有による幅広い「協働体制」を築くことで、次代のニーズから生まれるボランティア活動や既存の活動の活性化を図り、社会的課題の解決や軽減につなげます。これらにより、多くの市民がボランティア活動に参加し、人と人とが支え合う、つながる、関わり合うことの「喜び」を実感し、人・まち・自然が「いきいきと輝き」誰もがいつまでもこころ豊かに安心して暮らすことの出来るまち「綾部」を目指します。

※傾聴ボランティアの在宅訪問

※高齢者サロン　「こぶしの家」

2　センターの重点課題

「センターの10年間の成果と現状」「市民等の実態と意識」から問題点の把握と課題を明確にし、今後新たに「あやべボランティア総合センターの目指すもの」より考察される、センターの取り組むべき重点課題を下記のとおり設定しました。

①ボランティアの「したい」「してほしい」をスムーズにつなげよう！

②ボランティア情報を幅広く伝えよう！

③親しみのあるセンターづくりを行い、多くの市民に活用してもらおう！

④ボランティア活動への参加促進や活動支援により、担い手の育成につとめよう！

⑤幅広い関係機関との連携を図り、新たな取り組みにチャレンジしていこう！

⑥災害ボランティアなど必要とされるボランティア活動を支援しよう！

Ⅲ　あやべボランティア総合センター基本計画の柱

あやべボランティア総合センターは、６つの重点課題を解決し「こころ豊かな地域社会のまち綾部」の実現のため、次の７項目を計画の柱として活動を展開します。

1. “ボランティアコーディネートの強化”を行います。
2. “ボランティア活動の支援”を行います。
3. ボランティア活動参加への“きっかけ”と“学びの場”をつくります。
4. “幅広い協力体制”を築き、ボランティア活動の新たな可能性を引き出します。
5. “ボランティア情報の発信”を行います。
6. “災害ボランティア活動の支援”を行います。
7. センター運営のための“基盤強化”を行います。

①“ボランティアコーディネートの強化”を行います。

「自分たちにもできるボランティア活動を紹介してほしいな」
「ボランティア活動をセンターへ登録すると、どんな支援が受けられるのかな」
「今すぐボランティア活動をしたいな」

「今すぐボランティアにきてほしいな」
「気軽にボランティアを頼みたいな」

1－1 ボランティアの「したい」と「してほしい」をスムーズにつなぎます。

専門性の高いコーディネート対応を行い、ニーズに合った「したい」「してほしい」の思いに応えます。

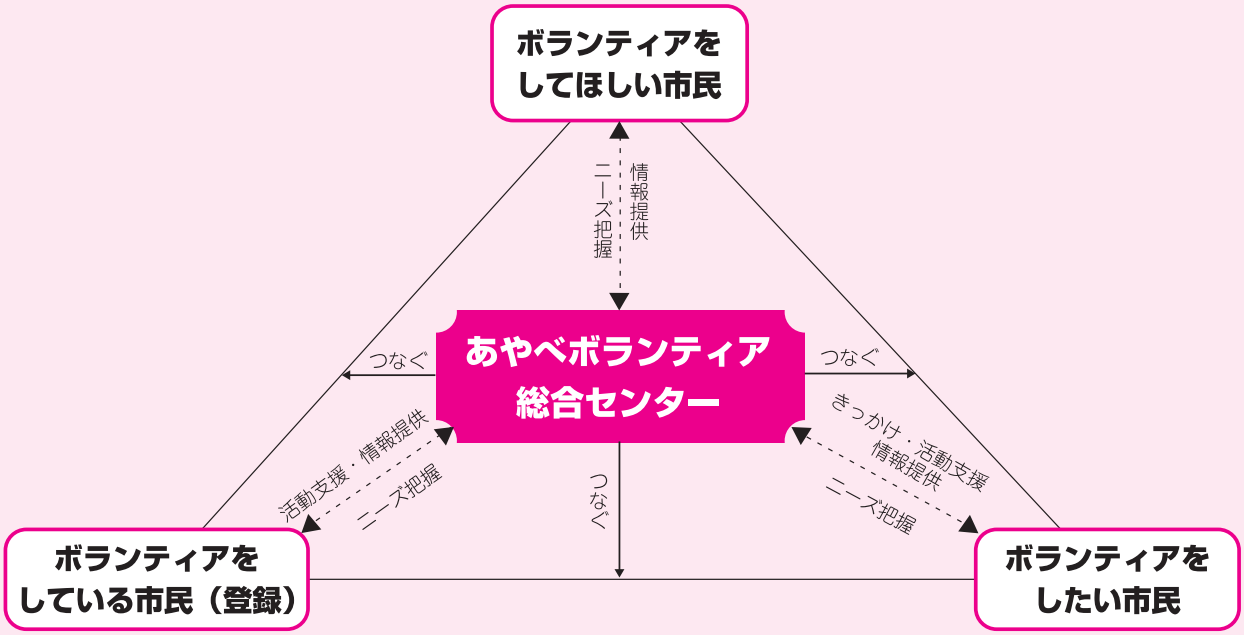
たとえば…
- ボランティアコーディネーター専従職員の設置。
- ボランティアコーディネーターのスキルアップ。
- 全市を対象とした定期的なニーズ調査の実施。
- 需給調整システムの強化。

1－2 ボランティア活動のセンター登録を推進します。

ボランティア活動のセンター登録の充実をはかりボランティアの「したい」を受け止め、「してほしい」につなげます。

たとえば…
- **広範な領域のボランティア活動のセンター登録の推進。**
- **登録ボランティアの支援内容の充実。**
- **登録ボランティアの手引書の作成。**

●ボランティアコーディネート図



※この図は、センターがそれぞれの市民との関係性をスムーズに「つなぐ」ために、どのような働きかけが必要かを示しています。

② “ボランティア活動の支援”を行います。

「ボランティアといっても活動資金が必要だしな」
「自分たちのボランティア活動をもっと活発にしたいな」
「ボランティア活動の専門性を高めたいな」
「ボランティア活動グループ同士と交流がしたいな」

2－1 ボランティアの声を聞くアンテナづくりを行います。

登録ボランティア等と日常的に「顔の見える」関係をつくり、そこから得た情報に基づく“活動支援”を行います。

たとえば…
- 窓口、電話、出前型相談の実施。
- ボランティア活動現場の取材。
- チャレンジ支援体制づくり。

※フットワーク（行動力）を活かした「相談」⇒「計画」⇒「実行」⇒「評価」⇒「改善」までのボランティア活動の支援体制づくり。

チャレンジ支援体制の循環図

2－2 ボランティア活動のための環境をつくります。

登録ボランティア等が自分たちの思いを実現するために、利用可能な「もの」や「情報」を有効に活用し“活動支援”を行います。

たとえば…
- **センターの貸館。**
- **センター事務機材の貸し出し。**
- **ボランティア活動助成金情報の提供・申請に関する相談。**
- **ボランティア保険の対応。**
- **ボランティア情報の提供。**

2－3 ボランティアの「つどいの場」を提供します。

登録ボランティア等を対象に、「学びの場」「出会いの場」「交流の場」となる「つどいの場」をつくります。ボランティア活動者に必要とされる専門性の習得や、活動者同士が交わり相互の課題や情報の共有を図ることで、活動の発展につながるための“支援”を行います。

たとえば…
- **ボランティアスキルアップ講座の開催。**
- **ボランティア活動分野ごとの専門性や情報共有の場づくり。**
- **ボランティア同士の交流の場づくり。**
- **ボランティアの活動発表の場づくり。**
- **視察、研修の相互の受け入れ。**

※あやべボランティアフォーラム2010

2－4 ボランティア団体の運営を支援します。

登録ボランティア団体等の運営に関する悩みや課題に対して、解決策や軽減策また新たな方法や展開を共に考え、ボランティア活動の“支援”を行います。

たとえば…
- ボランティアの担い手づくりを目的とした、研修・講座の開催。
- ボランティアリーダー研修会の開催。
- 相談会の開催。

2－5 ボランティア活動の将来を見据えた「新たなしくみづくり」につながる活動支援を行います。

登録ボランティア活動等の実績や社会的な必要度に応じて、行政、民間、地域などの役割を明確にするための「手立て」を共に考え「提案」等の“支援”を図ります。

たとえば…
- 新たな活動計画づくり。
- 関係機関との調整。
- 窓口、電話、出前等の各種相談。

※パーキンソン患者リハビリ教室

③ボランティア活動参加への“きっかけ”と“学びの場”をつくります。

「ボランティア活動に興味があるけれどきっかけがなくて…」
「ボランティア活動っていったいどんなこと？」
「一度ボランティア活動を体験してみたいな」

3－1これからボランティアを始めたい人へボランティア活動の紹介を行います。

これからボランティア活動を始めたい人に対して、ボランティア活動の募集を行っている団体・イベントなどを紹介して参加への“きっかけ”をつくります。

たとえば…
- 窓口、電話でのボランティア活動の紹介、相談。
- ボランティア団体をまとめた紹介冊子の作成。
- センター情報紙「あボ情報」の活用による募集。
- 市広報誌、社協広報誌、あやべ市民新聞、ＦＭいかる等社会資源の活用による募集。

3－2 だれもが参加しやすいボランティア講座を開催します。

「ボランティアに興味のある人」や「自分に合った活動を見つけたい人」などが、気軽に“学び”“体験できる”ボランティア講座を開催し、活動を始める“きっかけ”をつくります。

たとえば…
- **身近なニーズをテーマとしたボランティア講座の開催。**
- **リクエストの多いテーマのボランティア講座の開催。**
- **体験型ボランティア講座の開催。**

※点訳奉仕員養成講座

3－3 子どもたちにボランティアについての「学びの場」をつくります。

教育現場で重視されている社会貢献やボランティアの分野にセンターが関わり「学びの場」をつくることで、子どもたちが「ボランティア活動をしたい」という気持ちになれるような“きっかけ”をつくります。

たとえば…
- **中高生を対象としたボランティア体験の実施。**
- **小学生を対象としたボランティア教室の開催。**
- **子どもたちが参加できるボランティア活動の紹介。**

ボランティア総合センターには、いつでも「ドキドキ」「わくわく」がある!!

3－4 ボランティア活動のイメージづくりに取り組みます。

ボランティア活動に「親しみ」や「素晴らしさ」を感じることにより、ボランティア活動に対するイメージアップを図り活動参加への“きっかけ”をつくります。

たとえば…

- **イメージキャラクターの作成。（募集）**
- **キャッチフレーズの作成。（募集）**
- **「ボランティアチャレンジ月間」「ボランティアの日」などキャンペーンの実施。**
- **市民が参加しやすいボランティアイベントの開催。**
- **ボランティア功労者表彰の実施。**

※あやべボランティアフェスティバル2009

④“幅広い協力体制”を築き、ボランティア活動の新たな可能性を引き出します。

「私たちのボランティア活動をいろんな機関から幅広く応援してほしいな」
「ほかの街のボランティアと一緒に活動したいな」
「もっと活動の輪を広げたいな」

※市外ボランティアとの視察交流会

4－1 関係機関と連携を図りボランティア活動の広がりを進めます。

地域・福祉・医療・学校・企業等の関係機関とボランティアニーズやボランティア情報の共有化を図ることにより、ボランティア活動の可能性を引き出すための“幅広い協力体制”をつくります。

たとえば…
- 日常的な情報交換、情報共有の場づくり。
- 必要に応じた課題や問題解決の協力体制づくり。
- ボランティア情報の発信。（情報紙、チラシの配布）

4－2 センターのサテライトを設置します。

社会資源の活用や地域の実情に応じて、市内の地区ブロック等にセンターのサテライトを開設し、“連携・協力体制”を築くことで地域に密着した事業展開を図り、ボランティア活動のつながりの輪を広げます。

たとえば…
- **社会資源を活用したセンターサテライトの設置。**
- **センターサテライトへのボランティアコーディネーターの設置。**
- **地域のボランティアニーズ調査の実施。**
- **地域の名人調査の実施。**
- **地域密着型のボランティア需給調整システムの構築。**
- **センターサテライトとの協働事業の実施。**

4－3 市外のボランティアセンターとの連携を図ります。

市外のボランティアセンターを通じて活動団体や関係機関との相乗的な“協力体制”をつくることでボランティア活動の新たなつながりの輪を広げます。

たとえば…
- **視察、研修の相互受け入れ。**
- **広域的な事業の実施。**
- **広域的なボランティア情報の共有。**
- **広域的な連携による人材確保の効率化。**

⑤ “ボランティア情報の発信” を行います。

「センターってどこにあるのかな」
「どんなボランティア活動があるのかな」
「どこにボランティア情報があるのかな」

5－1 「あボ情報」と「ホームページ」による情報発信を行います。

センター情報紙「あボ情報」と「ホームページ」を活用し、活動現場の取材から得た情報や、活動者のボランティアに対する思いなど、登録ボランティアの活動等に光をあて、ボランティアの魅力を伝えます。また、ボランティアを「したい」「してほしい」の情報や「助成金」「保険」「センター事業の案内」など役に立つ“情報発信”を行います。

たとえば…
- センター情報紙「あボ情報」の全戸配布や地域回覧の実施。
- センター情報紙「あボ情報」の配布箇所の細分化、エリアの拡大。
- センター情報紙「あボ情報」の発行回数の増加。
- ホームページによる情報発信。
- 掲載内容の検討。

※センター情報紙「あボ情報」

5－2 あらゆる広報媒体、社会資源を活用した情報発信を行います。

市・社協・各事業所の広報誌、ＦＭいかる、あやべ市民新聞、テレビなど様々な社会資源や広報媒体を活用し、広く市民へボランティア情報を伝えます。また、継続して情報を発信することにより、ボランティアを「身近」に感じることや、活動に対する「理解者」や「協力者」を増やし、ボランティア活動の広がりにつなげます。

たとえば…
- **市、社協広報誌等による情報発信。**
- **事業所との連携による情報発信。**
- **ＦＭいかるの番組出演等による情報発信。**
- **あやべ市民新聞等の紙面による情報発信。**
- **オフトーク通信による情報発信。**
- **テレビ放送による情報発信。**

※FMいかる「ボランティアの窓」の番組出演

5－3 地域に出向いた情報発信を行います。

地域の住民に対し、出前型の講座等を行い、センターの「役割」やボランティア活動の基本的な「知識」、ボランティアの「魅力」や「価値」をわかりやすく伝えます。

たとえば…
- **ボランティア出前講座の実施。**
- **プレゼンテーションマニュアルの作成。**
- **広報車による広報活動。**
- **各種事業所へのセンター情報の掲示。**

⑥ “災害ボランティア活動の支援”を行います。

「災害が起こったら私たちに何ができるかな」
「災害ボランティアをしたいけれど、どうすればいいのかな」

※京都府防災訓練

6－1 綾部市災害ボランティアセンター連絡会への参画による災害ボランティア活動の支援を行います。

綾部市地域防災計画に基づく綾部市災害ボランティアセンター連絡会へ参画し、綾部市内外の協力団体、関係機関との連携を図り、災害ボランティアセンターの運営に協力します。

たとえば…
- 綾部市災害ボランティアセンター連絡会議への参加。
- 綾部市災害ボランティアセンター連絡会関連事業への参加、参画。
- 綾部市災害ボランティアセンター連絡会の要請による活動協力。
- 災害ボランティアの募集。
- 災害ボランティアのセンター登録システムの構築。
- 各種防災訓練への参加。

⑦　センター運営のための“基盤強化”を行います。

「だれもが利用しやすいセンターづくりをしたいな」
「どうすればセンターが活発になるのかな」
「独自の財源でいろんな事業展開が図れるといいな」

7－1専従職員の配置による、「専門性」を活かした相談・支援体制を図ります。

地域のボランティアニーズに即座に応えられる「専門性」と「事務局員体制」の充実により、センター活動の推進につながる“基盤強化”を図ります。

たとえば…
- ボランティアコーディネーターの専従体制の構築。
- 専門性を活かした相談、支援体制の基盤強化。
- センター事務局の人員体制の基盤強化。（人数体制づくり）
- センター職員の専門性の習得。

※センター事務局の様子

7－2 運営体制の強化を図ります。

市民の財産であるセンターとして、より多くのボランティアニーズに応えられるために“運営体制の基盤強化”を図ります。

たとえば…

- **広範な領域のボランティア活動のセンター登録による運営の推進とあり方の検討。**
- **市、社協等関係機関との連携による、センター機能の充実と環境整備。（財源・人員体制・バリアフリー化・事務機材整備等）**

7－3 自主財源の確保による財政基盤の強化を図ります。

“財政基盤強化”の一環として、「自主財源確保」のシステムづくりを検討します。

たとえば…

- **寄付金制度の創設。**
- **センター運営支援金の開設。**
- **研修、講座の有料化。**

あやべボランティア総合センター基本計画の構成

Ⅰ ふりかえり確かめる

あやべボランティア総合センター基本計画を策定する取り組みとして、センターの10年間をふりかえり、成果と現状をまとめ、市民等によるアンケート結果を分析することにより、市民等のボランティアに対する実態と意識を明らかにしました。

【1 センターの10年間の成果と現状】

●成果
・登録ボランティア団体の増加
・ボランティアの広がりを目指した取り組み
●現状
・登録ボランティア団体95団体（2,450人）
・ボランティアの担い手の育成
・災害時のボランティア活動の支援

【2 市民等の実態と意識 】
（アンケート結果の分析より）

（市民）
・ボランティアへの関心が高い
・センターの認知度が低い
（登録ボランティア）
・ボランティアの担い手不足
（当事者）
・ボランティアの支援を受けたい人が多い
（施設等）
・ボランティアに対する施設の社会的役割
↓
センターに求めること
・**ボランティアをしたい人としてほしい人をスムーズにむすびつけること**

Ⅱ 基 本 構 想

【1 あやべボランティア総合センターの目指すもの】

◆センターが広げていきたい一人1ボランティアの「こころ」
・一人ひとりが対等なつながりを大切にし、
・「誰かの役に立ちたい」「追い風になりたい」「恩返しをしたい」という気持ちを、自分と等身大の行動に移すことにより、
・多くの人との「縁」をつくり、
・人と人とのつながりの「糸」が紡がれ「絆」となり、
・互いに関わり合えることの喜びに「幸せ」を感じ、
・その「幸せ」をボランティアとして「お裾分け」できる、
そんな一人1ボランティアの「こころ」の広がりを目指します。

◆センターが目指す綾部のまち

市民一人ひとりの「可能性」を伸ばすとともに、ボランティア・地域・関係機関・企業との目的意識の共有による「幅広い協働体制」を築くことで、時代のニーズから生まれるボランティア活動や既存の活動の活性化を図り、社会的課題の解決や軽減につなげます。

↓

多くの市民がボランティア活動に参加し、人と人とが支え合う、つながる、関わり合うことの「喜び」を実感し、人・まち・自然が「いきいきと輝き」誰もがいつまでもこころ豊かに安心して暮らすことの出来るまち「綾部」を目指します。

みんなでつくろう！こころ豊かな地域社会を

【2 あやべボランティア総合センターの重点課題】

「センターの10年間の成果と現状」「市民等の実態と意識」から問題点の把握と課題を明確にし、今後新たに「あやべボランティア総合センターの目指すもの」より考察される、センターの取り組むべき重点課題を下記のとおり設定しました。

- ①「したい」「してほしい」をスムーズにつなぐ
- ②ボランティア情報の発信
- ③センターの利用促進
- ④ボランティアの育成・担い手の育成
- ⑤関係機関等との連携
- ⑥災害ボランティア等の活動支援

Ⅲ あやべボランティア総合センター基本計画の柱

1 “ボランティアコーディネートの強化”を行います。
1－1 ボランティアの「したい」と「してほしい」をスムーズにつなぎます。
1－2 ボランティア活動のセンター登録を推進します。

2 “ボランティア活動の支援”を行います。
2－1 ボランティアの声を聞くアンテナづくりを行います。
2－2 ボランティア活動のための環境をつくります。
2－3 ボランティアの「つどいの場」を提供します。
2－4 ボランティア団体の運営を支援します。
2－5 ボランティア活動の将来を見据えた「新たなしくみづくり」につながる活動支援を行います。

3 ボランティア活動参加への“きっかけ”と“学びの場”をつくります。
3－1 これからボランティアを始めたい人へボランティア活動の紹介を行います。
3－2 だれもが参加しやすいボランティア講座を開催します。
3－3 子どもたちにボランティアについての「学びの場」をつくります。
3－4 ボランティア活動のイメージづくりに取り組みます。

4 “幅広い協力体制”を築き、ボランティア活動の新たな可能性を引き出します。
4－1 関係機関と連携を図りボランティア活動の広がりを進めます。
4－2 センターのサテライトを設置します。
4－3 市外のボランティアセンターとの連携を図ります。

5 “ボランティア情報の発信”を行います。
5－1 「あボ情報」と「ホームページ」による情報発信を行います。
5－2 あらゆる広報媒体、社会資源を活用した情報発信を行います。
5－3 地域に出向いた情報発信を行います。

6 “災害ボランティア活動の支援”を行います。
6－1 綾部市災害ボランティアセンター連絡会への参画による災害ボランティア活動の支援を行います。

↑

7 センター運営のための“基盤強化”を行います。
7－1 専従職員の配置による、「専門性」を活かした相談・支援体制を図ります。
7－2 運営体制の強化を図ります。
7－3 自主財源の確保による財政基盤の強化を図ります。

あやべボランティア総合センター基本計画策定経緯

過　程	内　　容	時　　期
準　備	第70回あやべボランティア総合センター運営委員会 ◆基本計画策定についての検討	平成２２年　２月　９日
	第１回綾部市・綾部市社協・あやべボランティア総合センターによる三者協議 ◆基本計画策定についての確認	平成２２年　３月２５日
	第２回綾部市・綾部市社協・あやべボランティア総合センターによる三者協議 ◆基本計画策定についての確認	平成２２年　５月　７日
	あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会設置要綱施行	平成２２年　６月　１日
体制づくり	第１回あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会 ◆策定委員委嘱・正副策定委員長選出・計画、アンケートの提案 ◆基調講演（龍谷大学教授　筒井のり子氏）	平成２２年　６月１５日
現状把握	第１回正副策定委員長・あやべボランティア総合センター事務局検討会 ◆アンケートについての検討	平成２２年　６月１７日
	ボランティア意識についてのアンケート調査開始	平成２２年　６月２５日 ～７月２０日
	ボランティア意識についてのアンケート調査まとめ ◆市民（回答２４１件）・登録ボランティア（回答３８７件） ◆当事者団体（回答４８件）・福祉施設（回答１７件）	平成２２年　７月２１日 ～９月１０日
	第２回あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会 ◆あやべボランティア総合センター１０年間のふりかえり ◆ボランティア意識についてアンケート調査の分析 ◆グループ討議「あやべボランティア総合センターに期待すること」	平成２２年　９月１４日
意見抽出	第３回あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会 ◆第２回策定委員会の報告 ◆グループ討議 「あやべボランティア総合センターの使命、目指す社会、価値とは？」	平成２２年　９月２７日
意見 取りまとめ	第１回　ワーキングチーム（部会）意見交換会 ◆第２回・３回基本計画策定委員会のふりかえり	平成２２年１０月１４日
	第２回　ワーキングチーム（部会）意見交換会 ◆基本計画素案づくり	平成２２年１１月１９日
	第２回正副策定委員長・あやべボランティア総合センター事務局検討会 ◆基本計画（案）の検討	平成２２年１１月３０日
	第４回あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会 ◆基本計画（案）の審議、意見のまとめ	平成２２年１２月１６日
	第３回　ワーキングチーム（部会）意見交換会 ◆基本計画（案）の審議、意見のまとめ	平成２３年　１月１１日
	第３回正副策定委員長・あやべボランティア総合センター事務局検討会 ◆基本計画（案）の検討	平成２３年　１月１２日
承認	第５回あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会 ◆基本計画の決定	平成２３年　２月　４日

あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会設置要綱

（設　置）

第１条　ボランティア総合センター基本計画（以下「基本計画」という）を策定するため、あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会（以下「委員会」という）を設置する。

（所掌事項）

第２条　委員会の所掌事項は、次に掲げるものとする。

（1）基本計画策定に係る調査に関すること

（2）基本計画の立案に関すること

（3）その他基本計画の策定に関すること

（組　織）

第３条　委員会は、委員20名以内をもって組織する。

２　委員は、次の各号に掲げる者の内から、あやべボランティア総合センター運営委員長が委嘱又は任命する。

⑴知識経験者

⑵ボランティア団体の代表者

⑶社会福祉事業団体の役職員

⑷ボランティアを推進する企業の役職員

⑸関係行政機関の職員

⑹その他委員長が必要とみとめる者

（任　期）

第４条　委員の任期は、所要の事務が終了したときまでとする。

２　補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。

２　委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

（会　議）

第６条　委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

（部　会）
第７条　第２条に掲げる所掌事項の検討を行うため、部会を置くことができる。
　２　部会は、委員長が定める事項について、調査・検討を行う。
　３　部会長は、委員会の委員の中から委員長が指名する。

（庶　務）
第８条　委員会の庶務は、あやべボランティア総合センター事務局において処理する。

（委　任）
第９条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この要綱は、平成22年６月１日から施行する。

※策定委員メンバー

あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会名簿

役　職	氏　　名	選出区分	所　　属
委員長	山　下　宣　和	社会福祉協議会	社会福祉法人綾部市社会福祉協議会
副委員長	小　林　　修	社会福祉施設	社会福祉法人松寿苑
委　　員	亀　井　博　幸	当事者団体・社会福祉施設	ＮＰＯ法人自立支援センターいかるがの郷
委　　員	上　田　幸　男	知識経験者	あやべボランティア総合センター前運営委員
委　　員	寺　山　千代子	知識経験者	あやべボランティア総合センター前運営委員
委　　員	松　下　二三夫	登録ボランティア	志賀郷ボランティアの会
委　　員	幹　田　秀　和	登録ボランティア	ＮＰＯ法人間伐材研究所
委　　員	大　槻　美代子	登録ボランティア	綾部市要約筆記サークルみみずく
委　　員	林　　幹　男	登録ボランティア	山家ふれあいサロン
委　　員	山　口　陽　祐	登録ボランティア	倶楽部あやべ
委　　員	塩　見　良　治	教育機関	綾部市教育委員会事務局教育部学校教育課
委　　員	梅　原　静　代	女性代表	男女共同参画推進経験者
委　　員	荒　賀　　誠	企業ボランティア	日東精工株式会社
委　　員	山　本　正　夫	センター運営委員	あやべボランティア総合センター運営委員会
委　　員	鎌　田　芙美子	センター運営委員	あやべボランティア総合センター運営委員会
委　　員	安　村　和　洋	行政	綾部市市民環境部市民協働課

あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会アドバイザー名簿

氏　　名	所　　属
土　田　昭　一	社会福祉法人京都府社会福祉協議会
筒　井　のり子	龍谷大学教授

あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会部会員（ワーキングチーム）名簿

氏　　名	所　　属
村　上　治　男	あやべボランティア総合センター運営委員会（綾部作業所グループ）
高　本　克　男	あやべボランティア総合センター運営委員会（京都綾部ユニセフ協会）
前　田　道　子	あやべボランティア総合センター運営委員会（手話サークルあやとり他）
石　田　富　夫	あやべボランティア総合センター運営委員会（綾部国際交流協会）
泉　　朝　子	あやべボランティア総合センター運営委員会（ＮＰＯ法人あやべ福祉フロンティア）
黒　田　小枝子	あやべボランティア総合センター運営委員会（なでしこの会）
塩　見　清　子	あやべボランティア総合センター運営委員会（つくしの会）
森　本　富貴子	あやべボランティア総合センター運営委員会（綾部市食生活改善推進委員協議会）

あやべボランティア総合センター基本計画策定委員会事務局員名簿

氏　　名	所　　属
田　中　克　典	あやべボランティア総合センター事務局
大　槻　秋　夫	あやべボランティア総合センター事務局
四　方　ふ　み	あやべボランティア総合センター事務局

用　語　説　明

【あ】

あボ情報

あやべボランティア総合センターの情報紙。センター情報、ボランティア活動情報、募集情報等を掲載。（年6回発行・登録ボランティア、関係機関等に配布）

綾部市災害ボランティアセンター連絡会

綾部市・綾部市社会福祉協議会・あやべボランティア総合センターが中心となり、平時から各関係機関・団体との連携をはかり、被災時に災害ボランティアセンターが迅速かつ円滑に活動するために設けられた連絡会。

FMいかる

綾部市でコミュニティー放送をおこなっているFM局の愛称。

【か】

活動分野別部会

あやべボランティア総合センターに登録されているボランティア団体の各分野別の専門性の向上や、情報交流等を目的とした自主活動。演芸・文化、まちづくり、高齢者支援、障害者支援の部会がある。

【さ】

災害ボランティアセンター

大規模災害が発生したときに、被災者のニーズとボランティアをつなぎあわせる拠点のこと。

サテライト

ここでは、あやべボランティア総合センターから離れた場所に設けられ、地域または地域ブロックにおいてセンターと同じ役割を果たすものを指す。

サマーボランティア体験

夏休み期間中に中高生等を対象としたボランティア体験プログラム。主に社会福祉施設で１コース３日間のボランティア体験おこなう。

社会資源

ここでは、ボランティアニーズを充足するために活用される施設、機関、個人、集団、資金、知識、技能等々の総称を指す。

社会福祉協議会

それぞれの都道府県、市区町村で、地域住民、民生委員、児童委員、社会福祉施設、社会福祉法人等の社会福祉関係者、保健、医療、教育など関係機関の参加・協力を図り、地域福祉を推進する民間団体。

スキルアップ

教養や訓練を通して獲得した技術・能力の習得、向上を図ること。

セミナー

小人数を対象とし、討議などをまじえた講習会、研究集会のこと。

世界連邦都市宣言

地方自治体が平和実現のために世界連邦運動に賛意を表する都市宣言。日本では昭和25年(1950)10月14日、綾部市において初めて宣言をおこなった。

専従職員

ここでは、あやべボランティア総合センター専属の職員としてボランティアコーディネート業務に専門的に従事する職員を指す。

【た】

地域コミュニティー

地域住民が生活している場所を基礎とした、住民相互の助け合いや交流が行われている地域社会のこと。

当事者

ここでは、公的、民間サービス、家族、地縁組織等では補うことが困難な社会的課題を直接的に抱えた人等を指す。

当事者性

ここでは、当事者の立場に立ったものごとの考え方の度合を指す。

【は】

バリアフリー

社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障害や精神的な障壁を取り除くための施策、若しくは具体的に障害を取り除いた状態。一般的には障害者や高齢者が利用する上での障壁が取り除かれた状態として広く使われている。

プレゼンテーション

情報伝達の一種で、聞き手に対して情報、企画、提案を提示して説明すること。

ボランティアガイドブック

あやべボランティア総合センターの登録ボランティアを紹介した冊子。活動内容や連絡先等を掲載。

ボランティアコーディネーター

ボランティア活動における、個人、機関を対等につなぐことや、ボランティアや市民活動の主体的な活動の推進を支援することを主な仕事とする専門職。

ボランティアNEWS！

あやべボランティア総合センターの広報誌。センター発のボランティアの募集情報等を「社協だより」の紙面に掲載。（年6回発行・全戸配布）

ボランティアフェスティバル

市民へのボランティア意識の裾野を広げることを目的とした大会。ステージでのボランティア活動紹介、パネル展示、模擬店販売等を実施。

ボランティアフォーラム

ボランティア活動の啓発と情報交流を目的とした討論集会。ボランティア関係者による講演会、ボランティア活動の実績報告や、パネルディスカッション等の意見交流を実施。